

【特別支援学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津特別支援学校好学舎分校
-----	---------------

1 前年度 評価結果の概要	◇ほとんどの項目が目標を達成した。今後も継続していく必要がある。 ◇児童生徒の転出入が割合が高いため、その都度、実態把握や適切な支援の計画・実施を行い、継続していくことが必要である。 ◇関係機関(特に施設以外、県外機関も)との連携については、丁寧な関わりをもつようにアプローチを続けたい。
------------------	--

2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	① 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育活動の推進に努める。 ② 新学習指導要領を踏まえたうえで、児童生徒のこれまでの成長歴、特性に配慮しながら、教職員が教育目標、教育活動について意思統一を図る。 ③ 分校に通う児童生徒についての指導、支援について、専門性の向上を図る。 ④ 児童心理治療施設「好学舎」や関係機関と連携し、支援体制の確立を図り、学校運営を円滑に遂行する。 ⑤ 業務および組織の見直しを常に行いつつ、働き方改革の推進に努める。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○授業への取り組みが向上した(理解度、授業を受ける態度など)と認められる児童生徒70%以上 ○家庭学習の定着:課題に取組、提出する児童生徒70%以上 ○「個別の指導計画」における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答する教員70%以上	・児童生徒に合わせた学習環境や学習形態などの工夫(ICT機器の効果的な活用や、活動内容・時間の調整など個別の対応を可能な範囲で実施) ・負担が少なく、主体的に取り組みやすい課題の提供 ・自立活動に関する専門性向上に必要な校内研究及び職員研修を設定し、効果的な指導及び評価を行う。	B	・児童生徒の様子を把握し、一人一人に応じて、活動時間や学習内容の調整を行っている。そのため、授業態度が向上した児童生徒が見られる。 ・家庭(好学舎)と取組状況を共有し、内容の調整を行い、定着が図られている。 ・自立活動についての授業研究を通して専門性の向上を図っているため、目標はおおむね達成できていると思われる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者との接し方を含めた生活態度が向上した児童生徒60%以上 ○自分自身を振り返ったり、思いを適切に話せるようになったりした児童生徒60%以上	・学校生活の様々な場面で、教師が手本となる意図を示す。 ・児童生徒の思いを表出しやすくなる場の設定や関わり方を行う。	A	・学校生活全般を通して取り組むことで、児童生徒の生活態度の変容が見られている。 ・自分自身を振り返る際に、児童生徒の実態に合わせた記述や選択肢、気持ちカードを準備し、意思の表出を促している。	A	・「他者との接し方を含めた生活態度が向上した」と回答した教員93%、保護者86%となっている。 ・「自分自身を振り返り、思いを適切に話せるようになったりした」とした教員93% ・振り返りの仕方について、生活態度の変容につながるよう手順を見直した。	A	・会での生活を含めて、よく取り組まれていることが評価される。 ・児童生徒も多感な年齢のため、身近で接する指導者の「心の安定」も大事である。その上で、教師が手本となる態度や言動をお願いしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止や対応等を理解し、組織的に行うことができていると回答した教員60%以上	・いじめについての研修を年に2回以上行う。 ・いじめの認知・認知の観点から、児童生徒の様子を正しく見取り、教師間の情報共有を密に行う。	A	・研修を通して、学級経営を見つめ、防止や対応に繋がると考えた。 ・アンケートを基にした児童生徒への聞き取りから、いじめと感じる行動を把握し、情報共有することができた。	A	・「いじめの防止や対応等を理解し、組織的に行うことができている」と回答した教員93% ・4月、8月、12月にいじめの対応に関する校内研修を行い、現状や対応の確認ができた。 ・週4回の放課後の職員情報交換会、施設との日々の連絡により、全児童生徒のきめ細かい把握と対応を行うことができた。	A	・一人一人のストレス等の発散など、今後もよりしくお願いしたい。 ・先生方のいじめへの情報共有がうまくいっている。今後も校内研修や様々な外部研修への参加をお願いしたい。
	◎児童生徒が夢や希望をもち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組むとすための教育活動	◎「児童生徒の希望や実態等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と回答する施設職員50%以上	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成において本人や保護者の希望やニーズを的確に把握し反映する。 ・キャリア教育を踏まえ、将来に共通する夢や希望などについての情報提供や聞き取りを行う。 ・中学部における進路指導の充実(職場体験、見学、高校説明会等の実施)	・各種の計画を通して、ニーズの把握を行っている。 ・進路指導の充実に向けての取組は計画通りに実施できている。	B		A	・学校では「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と保護者全員が回答した。教員もほぼ計画どおりに取り組んだと答えた。 ・職業教育については、職員研修会により理解が深まった。 ・中学部職場訪問により、生徒が働く生活への関心を深めた。	A
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○個人の登校率90% (特段の理由のない欠席を10%以下に抑える) ○遅刻なしで登校できた日80%以上	・実態を踏まえ、登校を習慣化できる環境づくりや授業設定を行う。 ・登校の動機付けとなる関わりを行う。	B	・通院等の理由がない欠席はほとんどなく、達成可能な見通しである。 ・遅刻が多い児童生徒への対応を、引き続き好学舎と連携し実施したい。	B	・アンケート結果より特段の理由のない欠席は見られなかった。 ・後期に児童生徒の遅刻が増加した。(体調不良や転入後の慣れに時間を要したことなどに起因) ・好学舎と連携し、登校準備の様子を把握し、登校の意欲付けを行った。	B	・登校率の向上よりも、欠席時や遅刻等の対応、フォローが大事である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日に定時退勤を設定 ・学校閉庁日を4日間設定する。 ・会議内容の事前周知や資料の精選による会議回数や時間短縮	A	・規則を超える時間外勤務は、なかった。 ・定時退勤設定日の最終退勤が1時間以上超過することがあるため、定時を目指したい。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均約17時間、時間外在職時間は、一部の職員のみみられるが、規則を超えるものはなかった。 ・会議や研修も効率よくすすまれていると職員のほぼ全員が感じている。 ・学校閉庁日を4日間設定した。	A	・改善へ向け努力されている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○関係機関との連携の推進	○児童相談所や関係学校、好学舎との連携強化・内容の充実	○児童相談所との情報共有のケース会等の1回以上の開催 ○転入時の引継ぎ会の開催100%	・好学舎との細やかな情報交換、情報共有の実施 ・児童相談所への連携強化のための啓発(ケース会開催の依頼) ・関係校との引継ぎの充実	A	・好学舎との連携は、日々の連絡の在り方、共有すべき内容の再検討により、効果的に進めている。 ・関係校との引継ぎは、連絡を取りながら計画的に実施している。

5 総合評価・ 次年度への展望	●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ・ほとんどの項目が目標を達成した。今後も取組を継続し維持したい。 ・生活態度の向上や生活リズムの定着に関しては、施設と連携しながら粘り強く進めていきたい。 ・児童生徒の関わる部分は、年度途中の転出入が多いため、実態を把握し適切な指導及び支援を随時行う必要がある。
--------------------	---